

施策評価調書 目標年度(27年度)実績

施策コード Ⅲ-1-(4)

政策体系	施策名	地域に根ざした大学等高等教育の推進	所管部局名	企画振興部	長期総合計画(プラン2005)頁	119
	政策名	教育の再生、未来を拓く人づくりと青少年の健全育成	関係部局名	企画振興部、福祉保健部		

【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③
取組項目	公立大学法人制度を生かした 県立大学の改革の推進	地域における「知の拠点」としての 県立大学の機能発揮	県内大学等との連携による 産業の振興や地域活性化の推進

【Ⅱ. 目標指標】

指 標		関連する 取組No.	基準値		目標年度(27年度)			目標達成度(%)						
			年度	基準値	目標値	実績値	達成度	25	50	75	100	125		
i	県と県内大学等との連携事業数(件)	②③	H18	25	100	111	111.0%							
ii	県立大学の公開講座数(講座)	①②	H22	36	46	116	252.2%							

【Ⅲ. 指標による評価】

評価		理 由 等	平均評価
i	達成	文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」にプランが採択された大分大学(申請者)、看護科学大学、日本文理大学及び別府大学と県との「おおいた創生」事業推進に関する協定締結をはじめ、県内大学との連携強化に取り組んだ結果、目標値を達成した。	達成
ii	達成	看護科学大学及び芸術文化短期大学が、中期計画で定めた社会貢献の取り組みを進めたことにより目標値を達成した。特に、芸術文化短期大学は、長期公開講座を幅広い分野で実施したことから、実績が目標値を大幅に上回った。	

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・幅広い教養と高度で専門的な能力を備えた社会が求める人材を育成するため、看護科学大学では県内初の養護教諭(1種)養成課程を開設するとともに、「看護師の特定行為研修」の指定研修機関として指定を受け、28年度入学生から大学院の定員を拡大した。芸術文化短期大学では、情報コミュニケーション学科におけるコース再編(心理スポーツ、地域ビジネス、情報メディア)など、社会に必要とされる専門性の向上を図るためのカリキュラム編成を推進した。
②	・地域における「知の拠点」としての機能を発揮するため、看護科学大学では、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に採択された看護学生による予防的家庭訪問実習をカリキュラムに取り入れ全学的に実施した。芸術文化短期大学では、専門性の高い長期公開講座の拡充、地域ふれあいアート講座や地域巡回演奏会の開催など、社会貢献活動に取り組んだ。
③	・大学の国際人材研修制度を利用する企業に対する商工会議所と連携した支援(海外戦略推進事業)や、大分大学が医学部に開設した臨床医工学センターの立ち上げに対する産業界と連携した支援(東九州メディカルバレー構想拠点化機能強化事業)など、産学官連携により様々な分野の課題解決に向けた取り組みを推進した。

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(27年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価
			総合評価
① ② ③	公立大学法人運営費交付金(看護科学大学)	598,642	A
① ② ③	公立大学法人運営費交付金(芸術文化短期大学)	456,094	A

【VI. 施策に対する意見・提言】

<p>○第9回安心・活力・発展プラン2005推進委員会(H27.3)</p> <p>・大学の知の拠点としての取り組みについて、県立大学のことをうたっているが、他の大学とも連携をすすめて欲しい。</p>	<p>○「安心・活力・発展プラン2005」第4回発展部会 (H27.2)</p> <p>・アクティブラーニング・ディブラーニングが大学に求められている中、課題設定が重要となるため、地域課題の解決など地域の方々と一緒に活動できるような取り組みを、今後一層充実して欲しい。</p>
--	--

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	成果と今後の施策展開
A	<p>・看護科学大学では、修士課程におけるNP養成コースの開設(H20)や学部の看護師教育への特化(H23)を全国に先駆けて導入したほか、養護教諭(1種)養成課程を県内で初めて開設(H27)するなど、幅広い教養と高度で専門的な能力を備えた社会が求める人材の育成に取り組んだ。</p> <p>・芸術文化短期大学では、国際総合学科の開設(H25)、美術科(H25)や情報コミュニケーション学科(H27)のコース再編など社会ニーズに応じたカリキュラムの改編、公開講座をはじめとする地域貢献活動の推進など、芸術文化による地域づくりに貢献できる人材の育成に取り組んだ。</p> <p>・今後は、県内大学等と連携して、大学等が持つ研究開発機能やシンクタンク機能、学生の活力を活用するとともに、少子化の中での学生確保に向け、各県立大学の特色を生かした魅力ある大学づくりを推進する。</p>